



嬉 望

第 18 号

兵庫教育大学 学校経営コース大学院生編集部

 学校経営コースは、全国から集まった現職教員・教育行政職員のみのも大学院生で構成されています。

●兵庫県立神戸北高等学校の第三者評価を実施

11月11日（金）、専門科目「学校組織マネジメントと学校評価」の授業の一環として、兵庫県立神戸北高等学校の第三者評価を実施しました。学校経営コースにおける第三者評価は、例年実施しているもので、昨年度は福井県の高校と兵庫県内の中学校で行いました。

今回は朝7時半に集合して、生徒の登校風景の観察から始まり、管理職や幹部教員のヒアリング、SHRや授業観察、PTA役員や生徒会役員へのインタビュー等、かなりハードスケジュールでしたが、神戸北高校のご協力のおかげで、私たちの授業のねらいを達成できたと思います。この第三者評価の結果は、現在まとめの作業中で、約20ページの報告書にして、年内に神戸北高校に報告される予定です。

なお今回の第三者評価は、評価員として浅野教授と大野准教授、オブザーバーとしてピターソン博士と福井県立金津高校の三田村校長、そして1年生全員が参加しました。さらに、2年生の村上先生（山口県立厚狭高校）との奥山先生（兵庫県立神戸北高校）がサポートしました。

事前打ち合わせや当日の段取り等、堀校長先生をはじめ、多くの皆さんにご配慮いただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。ありがとうございました。写真右上は生徒の登校を観察する評価員、写真左下はPTA役員へのインタビュー風景、右下は学校の概要を説明される堀校長先生です。



●修了生の近況（上田享志先生：平成21年3月修了）

現任校の目黒区立不動小学校で3年目を迎えております。学校改善プランも総仕上げの時期で、「教育研究11月号」にまとめましたように、校内研究を通して、やりたいことはやったかな、と思っています。兵庫教育大学での学びを生かしている実感があり、充実しています。

今後とも、学び続ける姿勢を忘れずに、また明日からがんばります。

右の写真は、「教育研究11月号」のタイトルとご本人写真です。（編集部注）

やってよかった校内研究にしていくために
科学的に考え、理科の眼をもつ児童の育成
～生活科・理科の実践から理数教科の関連を図る～



東京都目黒区立不動小学校
上田 享志



●フィールドワーク（東京都立高校視察とつくば中央研修講師）

11月18日、つくばの教員研修センターで行われた中央研修（校長対象）に2年生3人（村上先生、奥山先生、有働先生）が、浅野教授の講師アシスタントとして参加しました。教員研修センターに旅費・宿泊費を負担していただき、所属長宛に派遣依頼を出してもらったの公務としての参加です。内容は、参加した2年生も開発に関与したケースメソッドです。写真上は、小学校校長の発表を進行する村上先生、下は参加した4名です。

また研修参加の前日には、村上・奥山・有働先生が、東京都立江北高等学校を訪問しました。同校は、東京都教育委員会から「進学指導推進校」指定、「重点支援校」追加指定、「部活動推進校」指定を受けている「文武両道」を目指す学校です。*

地域に誇れる進学校・江北の新たな挑戦として、組織的な学習指導・進学指導、地域連携を課題に学校改革を推進しており、他の都立中堅校に比して大学進学実績を急速に伸ばしている経営のポイントを伺いました。



●シリーズ 兵庫教育大学教職大学院の授業⑩

～授業の指導計画と教材研究の演習A～(必修共通基礎科目)

今回の授業紹介は、1年次前期に開講されている「授業の指導計画と教材研究の演習A」です。この科目は、「教科・道徳・特別活動・総合的学習における学習指導構想と指導案作成の理論を習得し、それぞれの授業モデルを学習指導案として明示できる資質と能力を身に付けることが期待される。」とシラバスに記されています。学校経営コースの私たちには、若手教員の育成の視点からも、役立つ内容でした。余談ですが、高校籍の筆者にとっては、小中学校の道徳の授業をはじめ、異校種のことも学ぶことができ強い刺激を受けました。下は昨年度の受講生のノートからの抜粋です。

